

講師の紹介と挨拶



講師：矢倉英隆

HP：フランスの哲学的生活 (<http://hidetakayakura.blogspot.com/>)

-
- 2007年、東京都医学研究機構（現東京都医学総合研究所）で免疫学の研究生活を終える
 - 2007年～2015年、パリ大学大学院で科学と医学の哲学を学ぶ
 - 2011年、科学から人間を考える試みとして[サイファイ・カフェSHE](#)を始める
 - 2012年、雑誌「医学のあゆみ」にエッセイ『[パリから見えるこの世界](#)』の連載を始める
 - 2013年、[サイファイ研究所ISHE](#)を設立
 - 2014年、生き方としての哲学を語り合う[カフェフィロPAWL](#)を始める
 - 2016年3月、新たに[サイファイ・カフェSHE札幌](#)を始める
 - 2016年9月、フランソワ・ラブレール大学で科学と医学の哲学研究を始める
 - 2017年6-7月、科学者が科学を文化にする[サイファイ・フォーラムFPSS](#)とフランス語のテキストを読み哲学する[ベルクソン・カフェ](#)を始める
 - 2017年9月、パリにおいて [Sci-Phi Café à Paris \(パリカフェ\)](#) を始める
-

この世界を理解するために、人類は古くから神話、宗教、日常の常識などを用いてきましたが、それとは一線を画す方法として科学を編み出しました。このカフェでは、長い科学の歴史の中で人類が何を考え、何を行ってきたのかについて毎回一つのテーマを選び、講師が私的なプリズムから見える世界を科学の成果に止まらず、歴史や哲学を絡めながら提示します。取り上げるテーマは、生命に関わるものが重要な位置を占めることになると思います。

これまで「科学と哲学」、「遺伝子」、「治癒」を取り巻く問題を取り上げてきましたが、第4回はわれわれ現代人に欠けていると思われる内的生活について考えます。まず、科学的なベースとして、一見何もしていないベースラインでの脳のエネルギー消費量が何かの仕事をする時に比べて圧倒的に多いという発見から明らかになったデフォルトモードネットワーク（DMN）、さらにマインドフルネスという過程を検討します。その後、瞑想と呼ばれる精神活動との関連や内的生活に占める瞑想の位置について考え、あるべき内的生活の姿を探ります。このテーマに興味をお持ちの方の参加をお待ちしております。